

令和元年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター

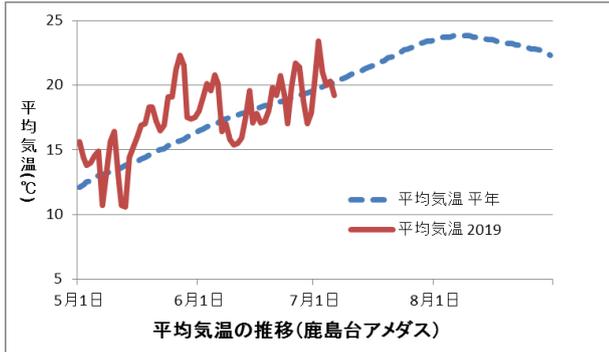
第5号 令和元年7月8日発行

TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/



1. 気象経過



<月別の気象データ>

	平均気温(°C)		降水量の合計(mm)		日照時間(時間)	
	平年	平年差	平年	平年比	平年	平年比
5月	16.1	1.9	91.0	-2.8	293.5	111.9
6月 第1半旬	19.5	3.6	0.0	-17.1	54.1	16.9
第2半旬	16.9	0.1	24.5	10.3	17.9	-11.6
第3半旬	17.1	-0.3	24.0	7.9	29.3	3.5
第4半旬	18.0	0.1	34.5	16.2	25.9	2.8
第5半旬	19.2	0.8	43.5	23.0	15.2	-6.0
第6半旬	19.4	0.6	53.0	28.5	12.8	-6.6
6月	18.4	0.3	179.5	55.8	155.2	13.7
7月 第1半旬	21.1	1.8	28.0	-0.8	24.9	5.9

2. 管内生育調査ほの生育概況

表2 調査結果(移植栽培)

調査地点	品種	栽植密度(株/㎡)	区分	田植日	6月20日調査結果				7月1日調査結果			
					草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	葉色(SPAD値)	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	葉色(SPAD値)
涌谷(小谷地)	ひとめぼれ	18.7	本年値	5月12日	35.1	344	8.8	43.4	45.4	554	10.1	46.3
			前年比・差	1日早い	113%	107%	0.0	115%	95%	104%	-0.3	114%
			4ヶ年平均比・差	±0日	106%	95%	0.3	100%	96%	99%	0.1	108%
田尻(桜田高野)	ひとめぼれ	15.7	本年値	5月12日	33.3	341	9.0	45.0	46.7	480	10.4	46.8
			前年比・差	1日早い	99%	93%	0.7	116%	90%	87%	0.3	102%
			2ヶ年平均比・差	1日早い	107%	116%	0.7	113%	101%	99%	0.4	102%
鹿島台(木間塚)	ササニシキ	17.3	本年値	5月14日	37.9	623	10.0	43.5	50.4	744	11.3	41.0
			前年比・差	2日早い	100%	131%	1.7	105%	100%	114%	1.2	94%
			平年比・差	1日早い	98%	128%	1.4	99%	98%	116%	1.3	97%
鹿島台(木間塚)	だて正夢	21.2	本年値	5月13日	39.6	392	9.2	46.9	55.4	594	10.9	49.9
			前年比・差	1日遅い	103%	150%	1.2	100%	99%	132%	0.4	111%
			2ヶ年平均比・差	1日遅い	112%	131%	1.6	109%	113%	123%	1.3	113%
南郷(和多田沼)	金のいぶき	16.3	本年値	5月3日	36.8	525	9.0	43.4	51.2	632	10.3	44.8

※平年値は過去5年間の平均値。過去平均は5年未満の平均値。

※金のいぶきは、調査1年目のため前年値・平年値なし。

草丈：ひとめぼれ、ササニシキは概ね平年並み。

茎数：ひとめぼれは平年並み。

葉数：平年並み～+1.3枚。生育はやや進んでいる。

葉色：ひとめぼれ、だて正夢は平年並み～濃い。

表3 調査結果(直播栽培)

調査地点	品種	栽培様式	播種日	播種量(kg/10a)	6月20日調査結果				7月1日調査結果			
					草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	葉色(SPAD値)	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	葉色(SPAD値)
小牛田(荻塚)	萌えみのり	鉄コーティング湛水直播	5月13日	3.7	21.6	77.1	5.2	41.7	35.8	233.1	7.4	46.1

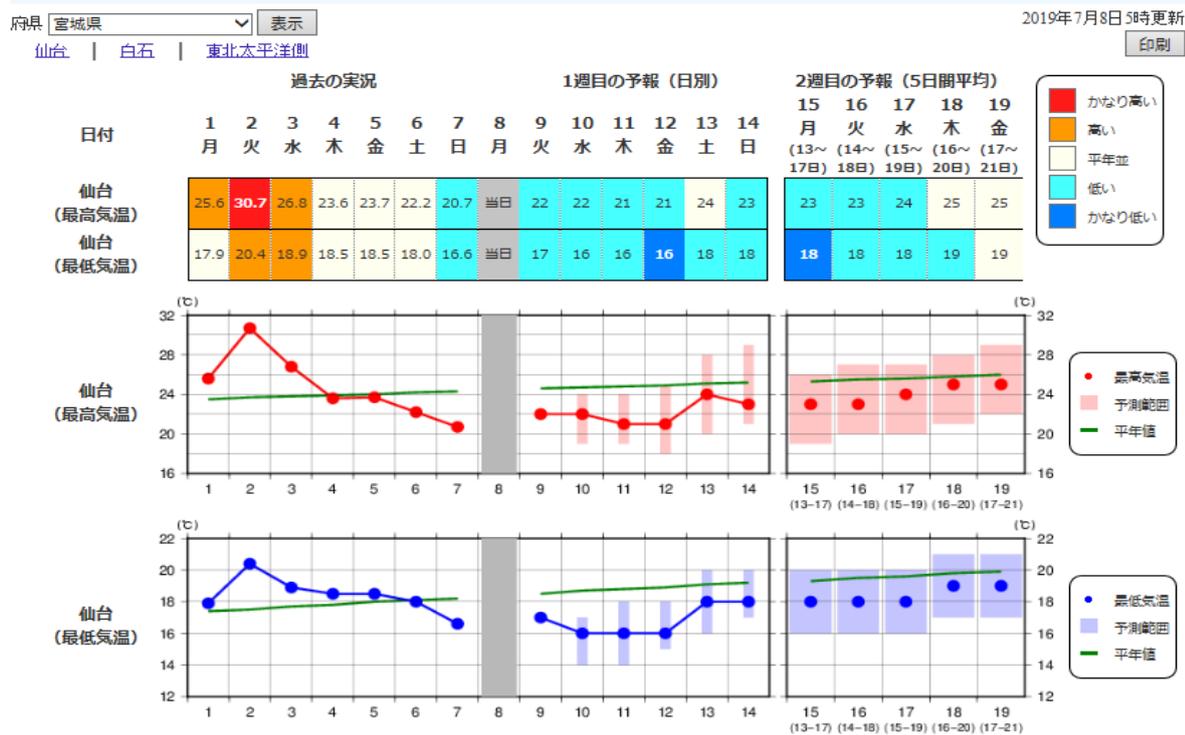
※直播萌えみのりは、調査1年目のため前年値・平年値なし。

3. 今後の栽培管理

☆水管理

- ・多くのほ場で有効茎数を確保しているとみられます。中干しをまだ始めていないほ場では速やかに実施しましょう。中干しは、幼穂形成期前に終了しましょう。
- ・根腐れが発生しやすく倒伏の危険性がある水田は、有効茎を確保する頃から落水期まで、飽水管理により、根の健全化と茎の充実を図りましょう。
- ・仙台管区気象台の2週間天気予報によると、7月中旬は低温が予測されています。

2週間気温予報



<低温時の水管理>

- ・障害型冷害に至る危険が生じるのは最低気温 17°C以下といわれています。

最も低温に弱い減数分裂期（幼穂長 3~12 cm）に低温から幼穂を効果的に保護するには、17~20 cmの水深が必要となります。そこまで水深が確保できなくても、無風状態であれば水面上の気温は1~2°C高くなり、被害軽減の効果が期待できるので、可能な限り深水にしましょう。

・幼穂形成期から減数分裂期までの期間に低温に遭うと、その低温自体では障害不稔は発生しませんが、減数分裂期の低温に対して著しく弱くなるとされています。「前歴深水かんがい法」は、幼穂形成期（幼穂長 1~2 mm）から減数分裂期までの期間が低温の場合、10 cm程度の湛水により保温する水管理方法で、減数分裂期の深水管理と併用することで高い効果が期待できます。

☆追肥

穂揃期の葉色を維持するため、基本どおりの追肥を行いましょう。

○基肥窒素の肥効切れは7月第1半旬頃の見込み（図1参照）。乾土効果の影響は少ない見込み。

○稲体窒素吸収量は平年並み（図2参照）。

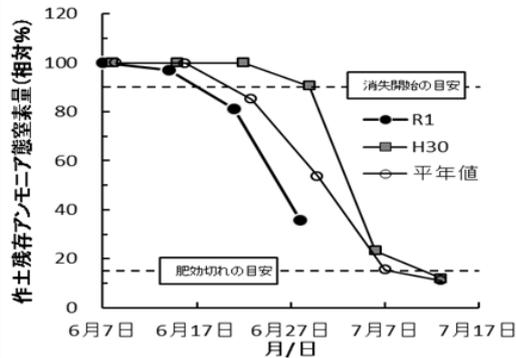


図1 土壌中残存アンモニア態窒素の消失経過

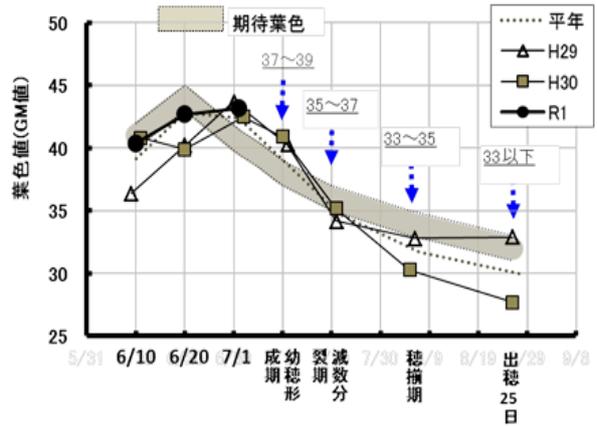


図2 葉色の推移（ひとめぼれ生育調査ほ県平均）

※追肥後一時的に稲体窒素濃度が高まると、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので注意が必要です。

※基肥一発肥料を使用した場合、基本的に追肥は不要です。

※復元田では、生育後半に地力窒素が発現するため、注意が必要です。

※鉄コーティング湛水直播栽培は、倒伏しやすいため幼穂形成期追肥は控えましょう。

表4 幼穂形成期及び減数分裂期の生育量の目安と追肥量

品種	幼穂形成期(幼穂長1~2mm)				減数分裂期(幼穂長3~12cm)			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)	追肥量 (窒素成分) (kg/10a)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)	追肥量 (窒素成分) (kg/10a)
ひとめぼれ	56~59	470~530	37~39	1.0	66~69	450~500	35~37	1.0
まなむすめ	65~70	580~600	35~37	2.0	-	500~550	36~38	-
ササニシキ	62~68	720~760	34~36	-	-	550~580	32~34	1.0~1.5
つや姫	70~75	470~500	35~37	2.0	-	-	-	-
だて正夢	64~70	390~460	40~42	-	76~82	380~420	37~39	2.0
金のいぶき	65~70	570~620	33~35	1.0	80~85	490~540	30~32	1.0

※だて正夢について、有効茎数の不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg/10aずつ施用しましょう。

表5 穂肥窒素の施用時期と影響

	穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化
幼穂形成期	○	◎	○	
減数分裂期		○	◎	◎

表6 幼穂形成期の予測値（7月7日現在）

移植日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日
予測値	7/1~7/4	7/3~7/7	7/5~7/9	7/8~7/11	7/11~7/15

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉~3.5葉として予測。平均気温は7月7日までは鹿島台アメダスの実測値、7月8日以降は鹿島台アメダスの平年値。

◎幼穂長を測って生育ステージを確認しましょう。



☆病害虫防除

1) コバネイナゴの防除

- ・水田での発生量が多くなっています。病害虫防除所の巡回調査（6/26～28, 7/1）の結果、発生量は過去3か年の平均よりやや多くなりました。
- ・中齢幼虫（体長 1.5cm 程度）になると本田に侵入します。齢が進んでから薬剤散布を行うと防除効果が低下するので、本田侵入盛期（7月11～15日）を目安に防除を行いましょう。



2) いもち病対策

- ・病害虫防除所の巡回調査（6/26～28, 7/1）の結果、本田での発生は確認されませんでした。
- ・古川農試の定点調査ほでは、6月30日（ひとめぼれで平年よりやや早い）が初発日でした。
- ・アメダス資料による感染好適日の推定（鹿島台アメダス）では、6月下旬から7月初旬にかけて数回感染準好適条件が出現しています。
- ・東北太平洋側の今後の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は多い、日照時間は平年並みか少ない予報となっています。
- ・今後、箱施用剤や予防粒剤の効果が低下し始める時期です。ほ場をよく観察し、葉いもちの発生が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。特に、穂いもちの重要な伝染源となる上位葉でのいもちの発生には十分注意しましょう。
- ・穂いもちの予防粒剤は出穂 30～5 日前に使用する剤が多いので、生育状況（幼穂長等）を観察し、適期に散布しましょう。



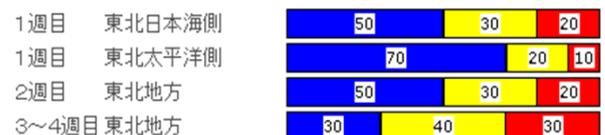
東北地方 1ヶ月予報（7月4日発表、7月6日～8月5日まで）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い